

令和元年度
授業評価結果報告書

群馬県立県民健康科学大学
教務学生委員会

令和元年度 授業評価報告書

1. 授業評価の概要

1. 1 授業評価の趣旨

授業評価の目的は、各教員が授業の内容および方法を改善し、教育の質を向上させることである。本学では平成 22 年度から、学生による授業評価とそれに基づいた教員の自己評価を組み合わせる形で授業評価を開始し、双方の評価結果を学生と教員が共有することで、この目的達成に取り組んでいる。

1. 2 学生による授業評価

1. 2. 1 調査票について

manaba を用いた授業評価調査は、平成 29 年度より開始され、本年度もこの方法を継続している。授業評価アンケートは、「学修支援システム manaba」(以下、manaba とする)において、学生が履修している授業科目名が授業形態別にリスト表示され、回答したい授業科目名を選択し回答ができる仕組みである。アンケートの冒頭には「課題に関する説明」として、教員が学生による授業評価結果を把握し授業改善・向上に活用すること、集計における回答者の個人情報の匿名化等といった授業評価の趣旨と個人情報保護に関する説明がされている。

Web システムを採用した結果、アンケート形式の自由度が拡大したことを受けて、平成 30 年度から授業評価アンケートの内容が一新された。項目数を 15 項目から 12 項目に絞り込み、かつ学生の回答を通して教員が自身の改善点を明確に把握できる質問内容とされた。また、回答例として提示した選択肢にあてはまらない場合は、自由記述欄で具体的な理由を求める形式とした。アンケートは、学生の授業に対する理解度・目標の達成度の確認から始まり、理解度・達成度が十分でない場合の理由の選択、授業に対する取り組み姿勢・準備状況、教員側の自己学修の促進状況、成績評価の明確さ等を確認し、最後に授業の満足度と良かった点・改善点を問う構成とした。回答は、原則として 5 件法を採用し、授業形態別に「講義」、「演習」、「実習」の 3 種類を用いた。

次ページ以降に授業形態別の授業評価アンケート評価項目を示す。

表 1 授業評価における授業形態別の評価項目

	分類	項目 No.	評価項目
講義	講義内容の理解度と目標の達成度、達成度が十分でない場合の理由	①	講義の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか。
		②	前項①で1-3と回答した方は、十分達成できなかった理由は次のどれに近いと思いますか。
		③	前項②で4を選んだ方は、具体的な理由を記入してください。
		④	前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください。
		⑤	前項④で1-2を選んだ方は、具体的な理由を記入してください。
	講義に対する取り組み姿勢・準備状況	⑥	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で講義を受けましたか。
		⑦	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようとしたか。
		⑧	講義に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか。
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑨	講義にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていたか。
		⑩	成績評価の方法と基準は明確でしたか。
	講義内容の満足度、良かった点・改善点	⑪	総合的にみて、この講義に満足できましたか。
		⑫	この講義の良かった点、改善点について、具体的に記入してください。

	分類	項目 No.	評価項目
演習	演習内容の理解度と目標の達成度、達成度が十分でない場合の理由	①	演習の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか。
		②	前項①で1-3と回答した方は、十分達成できなかった理由は次のどれに近いと思いますか。
		③	前項②で4を選んだ方は、具体的な理由を記入してください。
		④	前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください。
		⑤	前項④で1-2を選んだ方は、具体的な理由を記入してください。
	演習に対する取り組み姿勢・準備状況	⑥	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で演習を受けましたか。
		⑦	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようとしたか。
		⑧	演習に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか。
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑨	演習にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていたか。
		⑩	成績評価の方法と基準は明確でしたか。
	演習内容の満足度、良かった点・改善点	⑪	総合的にみて、この演習に満足できましたか。
		⑫	この演習の良かった点、改善点について、具体的に記入してください。

	分類	項目 No.	評価項目
実習	実習内容の理解度と目標の達成度、達成度が十分でない場合の理由	①	実習の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか。
		②	前項①で1-3と回答した方は、十分達成できなかった理由は次のどれに近いと思いますか。
		③	前項②で4を選んだ方は、具体的な理由を記入してください。
		④	前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください。
		⑤	前項④で2-4を選んだ方は、具体的な理由を記入してください。

実習に対する取り組み姿勢・準備状況	⑥	シラバス・オリエンテーションにより、授業の目的や目標、テーマを理解した上で実習を行いましたか。
	⑦	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか。
	⑧	実習に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか。
自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑨	実習にあたり自己学修を促す工夫がされていましたか。
	⑩	成績評価の方法と基準は明確でしたか。
満足度、良かった点・改善点	⑪	総合的にみて、この実習に満足できましたか。
	⑫	この実習の良かった点、改善点について、具体的に記入してください。

上記評価項目に対応する主な回答の選択肢を示す。

【全科目区分共通：項目①】※授業形態により下線部を表示

講義 or 演習 or 実習の内容を理解し、授業の目標を達成したと思いますか。

1. 達成できなかった
2. 最低限達成した
3. おおむね達成した
4. 十分達成した
5. 高いレベルで達成した

【全科目区分共通：項目②】

前項で1－3と回答した方は、十分達成できなかった理由は次のどれに近いと思いますか。

1. 勉強が足りなかった
2. 教え方が良くなかった
3. 1と2の両方
4. その他

【講義：項目④】

前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください。

1. 講義の目的・目標が明確でなかった
2. 話し方が聞き取りにくかった
3. 板書やスライド、資料が見にくかった
4. 講義の説明がわかりにくかった
5. 講義の時間配分が適切ではなかった
6. 学生の理解度の確認が十分でなかった
7. 質問・意見が気軽にできなかった
8. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかった
9. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった
10. 教え方が熱心でなかった
11. 学生の私語や出入りがうるさくても、教員が注意をしなかった
12. その他 ()

【演習：項目④】

前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください。

1. 演習の目的・目標が明確でなかった
2. 話し方が聞き取りにくかった
3. グループワークや課題に対する指示が明確でなかった
4. 演習の時間配分が適切ではなかった
5. 教材・器具、資料が適切でなかった
6. 質問・意見が気軽にできなかつた
7. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかつた
8. プレゼンテーションや提出物に対するフィードバックが十分でなかった
9. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかつた
10. 指導が熱心でなかつた
11. その他（ ）

【実習：項目④】

前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください。

1. 実習（テーマ）の目的・目標が明確でなかつた
2. 説明が聞き取りにくかつた（本学教員）
3. 説明が聞き取りにくかつた（実習先指導者）
4. 説明が聞き取りにくかつた（両方）
5. 指示・助言が明確でなかつた（本学教員）
6. 指示・助言が明確でなかつた（実習先指導者）
7. 指示・助言が明確でなかつた（両方）
8. 時間的に十分な指導を受けられなかつた
9. 必要な教材・器具が十分準備されていなかつた
10. 質問・意見が気軽にできなかつた（本学教員）
11. 質問・意見が気軽にできなかつた（実習先指導者）
12. 質問・意見が気軽にできなかつた（両方）
13. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかつた（本学教員）
14. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかつた（実習先指導者）
15. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかつた（両方）
16. カンファレンスが適切に行われなかつた
17. 実習報告書など提出物に対するフィードバックが十分でなかつた
18. 学生の自主性が尊重されなかつた（本学教員）

19. 学生の自主性が尊重されなかった（実習先指導者）
20. 学生の自主性が尊重されなかった（両方）
21. 指導が熱心でなかった（本学教員）
22. 指導が熱心でなかった（実習先指導者）
23. 指導が熱心でなかった（両方）
24. その他（ ）

【全科目区分共通：項目⑥⑦⑨⑩】

項目⑥：シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で演習を受けましたか。

項目⑦：わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようとしたか。

項目⑨：講義 or 演習 or 実習にあたり自己学修を促す工夫がされていたか。

項目⑩：成績評価の方法と基準は明確でしたか。

1. 全くそう思わない
2. そう思わない
3. どちらともいえない
4. そう思う
5. 強くそう思う

【全科目区分共通：項目⑧】 ※授業形態により下線部を表示

講義 or 演習 or 実習に対して週平均どのくらいの自己学修を行いましたか。

1. ほとんど行わなかった
2. 30分程度
3. 1時間程度
4. 2時間程度
5. 3時間以上

【全科目区分共通：項目⑪】

総合的にみて、この講義に満足できましたか。

1. 全く満足できなかった
2. あまり満足できなかった
3. どちらともいえない
4. 満足できた
5. 十分満足できた

1. 2. 2 授業評価の実施方法

授業評価アンケートは学修支援システム manaba 上で公開され、15 週の授業及び Semester 後半 8 週分の授業では、Semester 13 週目から公開を開始し 15 週目に終了した。前半 8 週分の授業では、7 週目から公開を開始し 8 週目に終了した。ただし、単位認定試験後の実習の場合などの理由で教員の要望があった場合には終了時期の延長等にて対応した。

授業評価は、原則として授業最終日の授業時間を活用し、授業担当教員から学生に対して授業評価の依頼と回答方法を説明し、アンケートを実施した。多くの学生は、主としてスマートフォンを用いてアンケートに回答した。スマートフォンを所持していない学生については、MM 教室や自宅等の PC を用いて公開終了期限までに回答をするように依頼した。授業評価アンケートは、個人が特定されないシステムを採用し、回答内容により学生に不利益が及ぶことはない。また、回答は学生の自由意思によるものとして保障されている。しかし、Web システムに

変更後回答率は低下した。そこで平成 30 年度より回答率の向上を目的として、担当教員が最終回の授業時間内に 5～10 分程度の回答時間を設けるとともに、manaba にログインし、その場で回答の概要を確認することを推奨している。manaba による調査結果の集計は、事務局が担当し、教員は関与していない。

1. 3 教員による授業評価報告書

教員による授業評価報告書は、学生による授業評価の集計結果及び自由記述内容を受けて、下記の 3 項目に沿って作成する。

- 1) 学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想
- 2) 実施した授業方法・工夫に対する評価
- 3) 授業に対する総合的評価と改善点

1. 4 授業評価結果の集計方法

学生による授業評価結果及び教員から提出された授業評価報告書は、科目区分別に、「教養教育科目」、「看護学部 専門基礎科目・専門科目」、「診療放射線学部 専門基礎科目・専門科目」に区分して集計した。なお、本年度は専門教育科目の合同科目については、各学部の区分に含め集計した。また、調査用紙は授業形態別に「講義」、「演習」、「実習」毎に作成されているため、それぞれ区分別に集計した。昨年度までの「実験」は区分から除外した。

2. 学生による授業評価の実施状況

2. 1 授業評価の実施科目数と学生の回答率

本年度に開講した科目の授業評価に関する実施状況及び学生による回答率をそれぞれ表2及び表3に示した。本年度も manaba システムにて調査を実施した。開講されたすべての科目で授業評価アンケートを設定した結果、実施率100%であった。

学生の授業評価への回答率を科目区別にみると、診療放射線学部専門基礎・専門科目が最も高く60.4%であった。さらに、授業形態別では講義が最も高く53.1%、実習が最も低く30.3%であった。特に実習は、昨年度42.6%から回答率が低下した。

しかし、manabaを利用して3年目となるが、全体的な平均回答率については前年度41.3%に比較し44.5%と約3%上昇し、回答率は改善傾向にある。

表2 令和元年度 学生による授業評価の実施科目数

科目区分	教養教育科目		看護学部 専門基礎・専門科目		診療放射線学部 専門基礎・専門科目		合計	
	実施	対象	実施	対象	実施	対象	実施	対象
講義	22	22	28	28	41	41	91	91
演習	29	29	23	23	16	16	68	68
実習	0	0	13	13	17	17	30	30
合計	51	51	64	64	74	74	189	189
実施率	100%		100%		100%		100%	

表3 令和元年度 学生による授業評価の回答率 (%)

科目区分	教養教育科目			看護学部 専門基礎・専門科目			診療放射線学部 専門基礎・専門科目			平均回答率
	回答数	履修者数	回答率	回答数	履修者数	回答率	回答数	履修者数	回答率	
講義	586	1327	44.2%	857	1918	44.7%	988	1334	74.1%	53.1%
演習	312	729	42.8%	577	1839	31.4%	345	594	58.1%	39.0%
実習				270	957	28.2%	210	626	33.5%	30.3%
合計 (平均)	898	2056	43.7%	1704	4714	36.1%	1543	2554	60.4%	44.5%

2. 2 学生による授業評価の得点状況

平成 30 年度よりアンケート内容が変更されたことを受けて、本年度も同様に集計可能な授業評価項目は、以下の 7 項目となった。

- ①講義（演習、実習）の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか。
- ⑥シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で講義（演習、実験、実習）を受けましたか。
- ⑦わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか。
- ⑧講義（演習、実習）に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか。
- ⑨講義（演習、実習）にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manaba の利用など）がされていきましたか。
- ⑩成績評価の方法と基準は明確でしたか。
- ⑪総合的にみて、この講義（演習、実習）に満足できましたか。

各授業評価項目について、科目区分別及び授業形態別に学生の回答から平均得点値を求めて図 1～図 3 に示した。科目区分別に見た場合、教養教育科目、看護学部及び診療放射線学部の専門基礎科目・専門科目の評価項目の得点平均値は、いずれも項目⑧（自己学修時間）を除いて、ほぼ 4 点前後を示した。平均得点が最も高かった項目は、診療放射線学部の実習の項目⑦「わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか。」であり、平均得点は 4.59 であった。次点は看護学部の 4.37 であった。また、項目⑪の「総合的にみて、この講義に満足できましたか。」における平均得点は、診療放射線学部 4.44、看護学部 4.24 と両学部ともに高く、高い満足度を示した。教養教育科目の講義・演習における項目⑪の平均得点もまた 4.0、4.33 と他の項目よりも高く、高い満足度を示した。

一方で、科目区分別においていずれも項目⑧「講義・演習・実習に対して、週平均どのくらいの自己学修を行いましたか。」に対する平均得点は、他の項目に比し著しく低かった。特に、教養教育科目の講義の平均得点は 2 に満たなかった。項目⑧の得点の詳細については、表 4 に示した。

自己学修の全授業科目の平均得点は 2.5（30 分から 1 時間以内）であった。授業形態別では実習の平均得点が 3.2（1～2 時間程度）で高く、講義・演習を上回っていた。

一方、昨年度との比較では、講義・演習・実習の平均得点はそれぞれ 0.1、0.1、0.4 の低下を示し、全授業科目で 0.2 低下した。

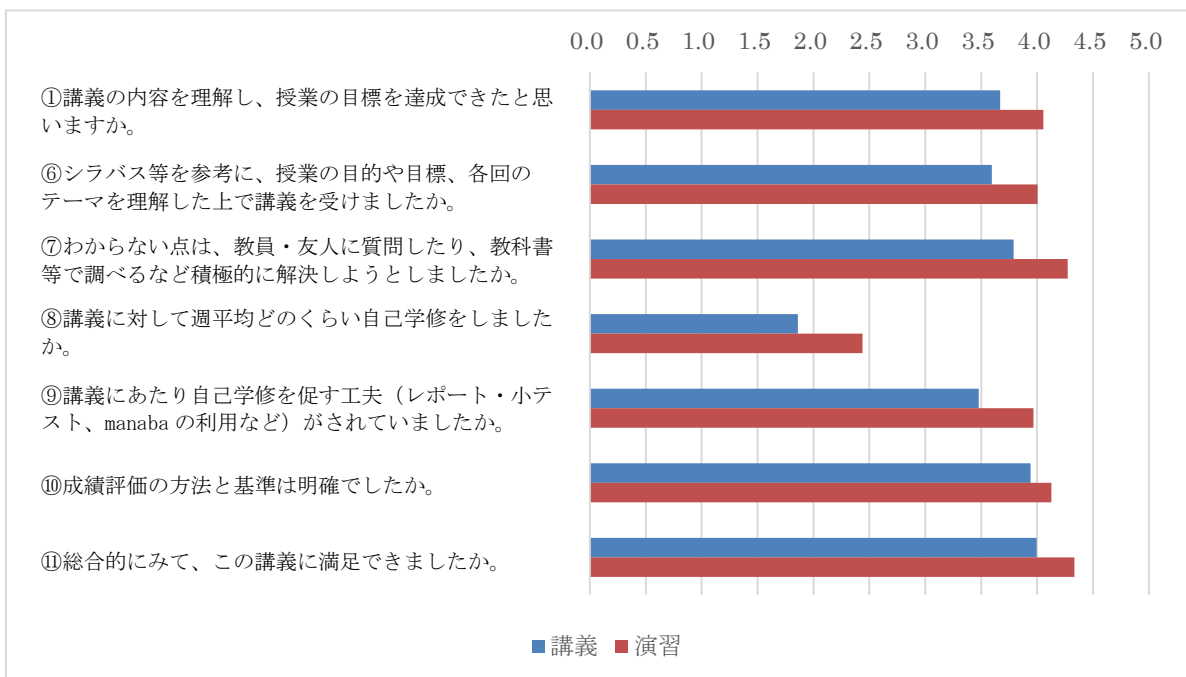


図1 令和元年度 教養教育科目の学生による授業評価得点

(回答数：講義 586、演習 312)

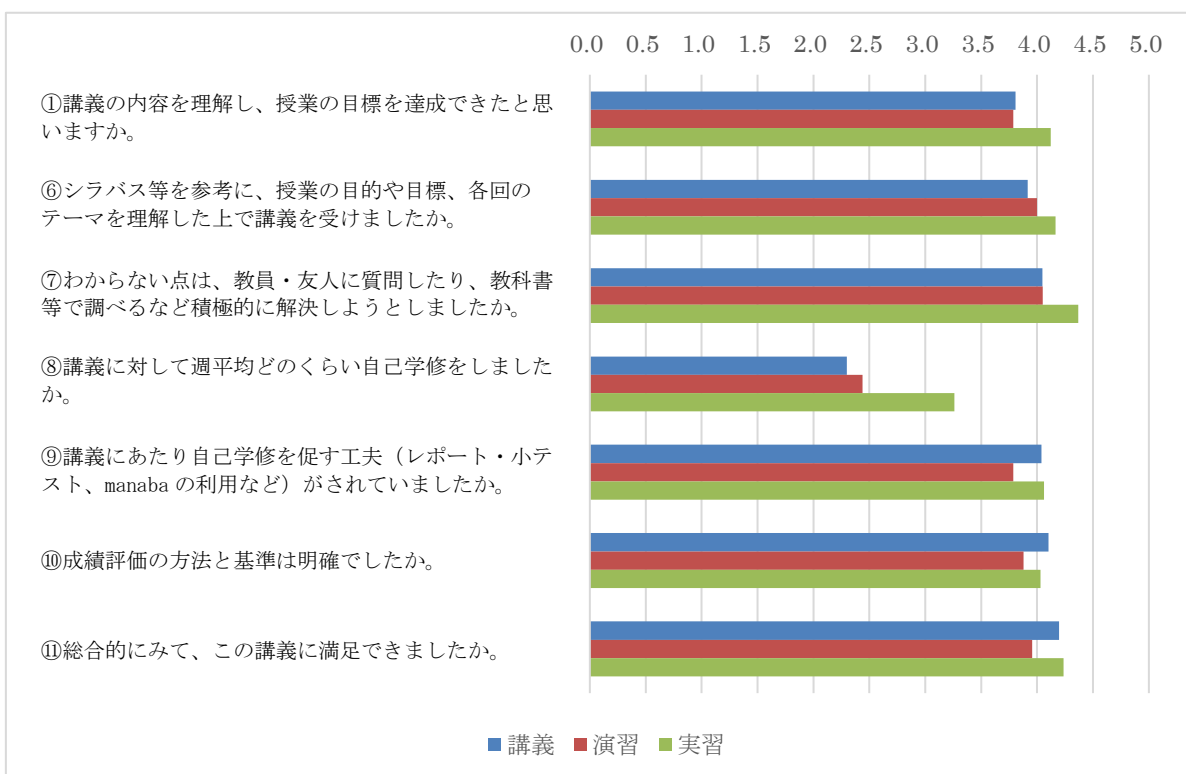


図2 令和元年度 看護学部 専門基礎科目・専門科目の学生による授業評価得点

(回答数：講義 857、演習 577、実習 270)

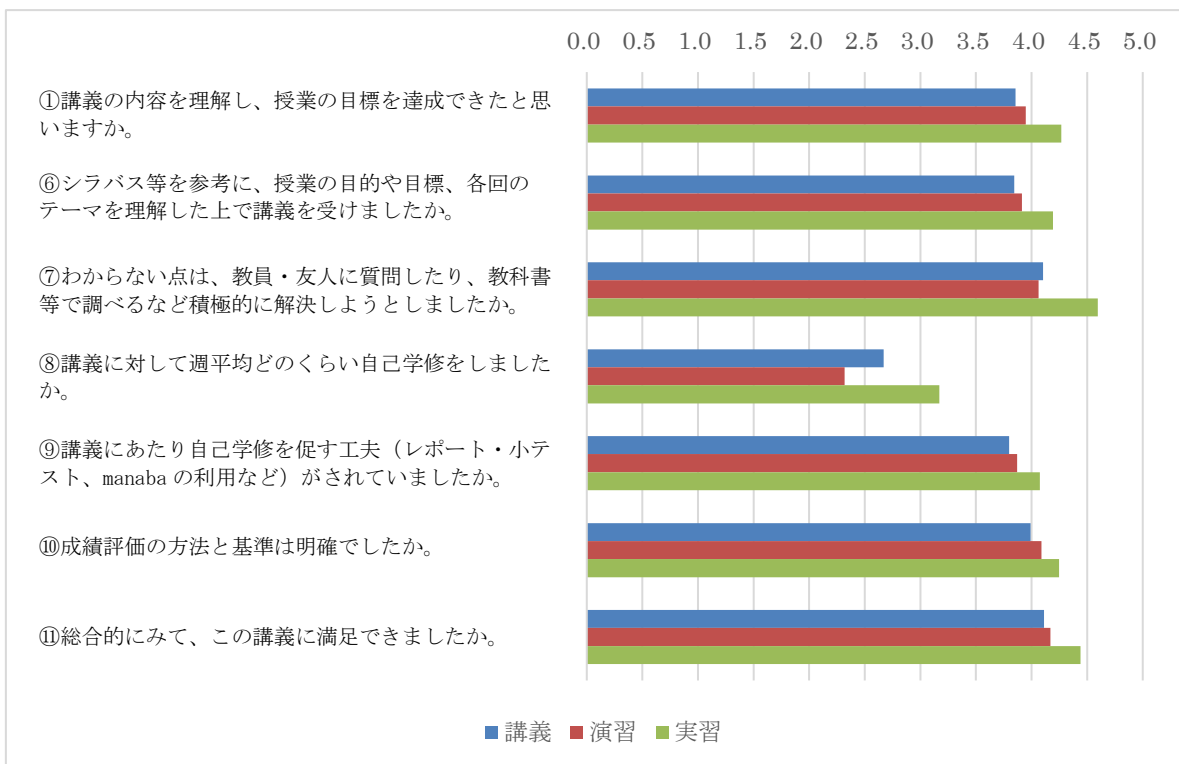


図3 令和元年度 診療放射線学部 専門基礎科目・専門科目の学生による授業評価得点
(回答数：講義 988、演習 345、実習 210)

表4 令和元年度 自己学修時間に関する評価得点の平均値

	教養教育科目	看護学部 専門基礎・専門科目	診療放射線学部 専門基礎・専門科目	平均
講義	1.9	2.3	2.7	2.3
演習	2.4	2.4	2.3	2.4
実習		3.3	3.2	3.2
平均	2.2	2.7	2.7	2.5

2. 3 自由記述内容

学生による授業評価は、記載した個人が特定されないよう匿名性を確保している。従って、アンケートの内容は、授業に関する学生の率直な意見・感想が記述されているものと考えられるが、自由記述の多くは学生主体の授業への興味・関心からの感想等を含め、授業改善を視点にした授業評価とは無関係な内容も散見された。

科目担当の教員にとっては、学生の視点を通して自己の授業を振り返り、授業改善・向上に取り組むための貴重な資料である。よって、本授業評価の自由記述の集計・整理作業においては、授業評価には無関係とも考えられる記述内容も学生のありのままの評価として取り扱った。記述内容は類似した内容を項目に分類し、以下に示した。

(1) 学修意欲や理解度の高まりを予期させるもの

- 歴史という言葉の意味の移り変わりや、史料とはどのようなものだったかなど、歴史学を違う方向から学べた。
- 中学や高校時代の美術の授業と違い、自主性、主体性、協調性があり、新しい視点で物事を見られるようになった。
- 日常で生活していたら人生を通して知らなかったことが知れたのでとても役に立ったと思う。
- 自分を省みる機会にもなったし、今後の人生に活かしていける興味深い授業でこの分野にさらに関心を持つことができた。
- 海外の文化や言語を学ぶのはとても楽しかった。
- 自分の健康に関することを学べて、生活習慣を見直すきっかけになった。
- 解剖について詳しく理解することができ臨床で役立つ講義で有意義な学びだった。
- 課題が明確に示されていたので自分が何をみてきたらいいのかしっかりと頭に入れて見ることが出来たので良かった。
- 地区活動計画の演習を通して、PDCA サイクルの方法が十分に学べたと思う。
- 1人で計画を立て、データを収集し論文をまとめることによって主体的に学ぶ大切さを学ぶことができた。今後活かせる知識を身につけることができたと思う。
- 実験でより講義で習ったところを理解することができた。
- 実験の目的を理解して実験に臨むことができた。
- MRI の基礎について多くのことを知ることができた。
- いろいろな人とのコミュニケーションにより様々な意見を聞くことができた。
- 両学部の連携を図ることによって、チーム医療の入り口として他職種のことを知るいい機会になった。
- クラスを半分に分けた教員に対する生徒割合が少ない演習では、教員に質問がしやすく、確認してもらえたので理解度・満足度が高かった。

(2) 学生が興味を示した教材や手法

- さまざまな看護専門職の実際や特色を聞き、今後の自分のキャリアを考える上で大きな材料になり貴重な経験だった。
- 看護学の基本概念について学ぶところは難しかったけれど、具体的な例を用いた説明や、わかりやすく説明してもらったので理解しやすかった。
- 事例に絡めながらの授業や全体的にイラストが多い授業だったので、わかりやすかった。授業を思い出しながら自己学修を進めることができた。
- わからないところや困ったところがあると丁寧に解説してくれたので理解がしやすかった。また日常を例にしての説明でイメージが掴みやすかった。
- 写真や図などから学んでいた身体の構造を実際に観察したり、触ってみたことで臓器の位置関係や膜・筋肉の構造、動脈と静脈の硬さの違い等の理解が深まった。
- グループワークを通して、講義で習った方法を活用することでわかりやすく理解することができて良かった。
- 実際画像処理を初めてして臨床に近い経験をでき大変素晴らしかった。
- 患者さんを車椅子から下ろす方法、人工呼吸のやり方など医療従事者として必要な知識、技術を身につけることができて良かった。
- 演習と講義が組み合わされていてとてもよかった。
- 講義のまとめを毎回してくださったのが一番良かった。
- 授業の後半はビデオ視聴により授業のまとめや説明があり理解を深められた。
- 授業の後の小テストがテストに直結していて勉強に役立った。
- 英語の和訳等は manaba を活用していたため、復習の時に役に立った。
- manaba に事前学修の動画などが載っていて分かりやすかった。
- 実技演習を manaba に動画で載せてもらえたので家で練習ができて良かった。
- 国試の過去問を manaba にあげて解説してもらえたのでよかった。
- 国試問題が最後についていて、学修しやすかった。
- 毎週ミニレポート課題あり講義の復習に繋がり、より授業の内容を理解できた。
- 事前学修をしてから実習に望めたので理解しやすかった。
- ペアで英語を話すのが多くてよかった。
- 課題の添削とレポートのアドバイスが非常に良かった。
- 授業中、学生に質問する場面があり、色々な考えを聞くことができて面白かった。
- manaba を活用して様々なプリントを発行してもらえたところが良かった。
- プレゼンが大変であったが、興味深い内容が多くてよかった。
- 先生方のロールプレイがとても面白かった。本当の現場にいるかのようなようだった。
- 看護過程の展開は2限目に説明、3限目に個人演習でとても取り組みやすかった。
- レジュメがとてもわかりやすく、自己学修にとっても役立った。
- 模型を使って実際に見て理解できたので、わかりやすかった。

- 講義内容を集中して聞けないので、メモを取る時間が十分あったのはよかった。
- 重要なところは繰り返し言ってくれるのがよかった。
- 各期目標が明確でわかりやすく実習において注目すべきことを整理しやすかった。
- ポートフォリオを活用することで演習のカンファレンスがしやすかった。

(3) 教員の努力を要求するもの

【授業展開】

- 学生にもわかりやすい言葉を使って講義を進めて欲しい。
- 何が重要な所なのかよくわからなかった。
- 何について話しているか、何を目的として勉強したらよいかわからなかった。
- 講義内容が細かすぎてついていけない部分があった。
- 図を使って説明をする時、板書がごちゃごちゃしていて少しわかりにくかった。
- 黒板の字を消すのが早くて書き写しきれなかった。新しく板書をするときは上の黒板を使用してほしい。
- 演習グループは、人数を減らした方が話し合いが進むのではないかと感じた。
- 演習時間が短くて、技術を習得するのが難しい。
- 課題が自己学修と授業内でやるのが一緒だったので改善してほしい。
- 聞いているだけの講義だった。学生が積極的に参加できる講義がよいと思った。
- 看護過程の際に先生方によって指導の方法が異なり混乱してしまうことがあった。
- 黒板に書いた字が見え辛いので、黒板に字を書いた後は電気をつけてほしい。
- 2チームに分けて演習を行うため、先生の指導に偏りが出してしまうと感じた。
- 何が目的なのかよくわからず講義を受けていた。
- 行動目標をもう少しわかりやすくしてほしい。

【教材】

- 教科書をあまり使わなかった。もう少し教科書を使い講義をしてほしかった。
- テスト前にテスト対策のプリントが配られたが、教科書や授業中に配られたプリントに載っていない問題があったので解答を配ったり、説明を加えたりしてほしい。
- 授業の進みが早くて理解できない部分があるので自分で復習する時にわかるような分かりやすいレジュメにしてほしい。
- レジュメの枚数が多いのもっとまとめて欲しい。
- スライド資料を配って欲しい。
- 期末テスト前の課題を仕上げるためにもう少し時間が欲しい。
- 計算問題や練習問題の解答を配布してほしい。
- ミニレポートの問題文が分かりにくいので要点を絞って書いてもらいたい。

【教員の姿勢・態度】

- 教員によって実習のサポート方針・方法が結構異なっているようであった。サポートなどもう少し統一するとより良いと思った。
- どこのページをやっているかわからずスピードが速くてついていけなかった。1人の生徒と一对一の授業という感じで他の生徒への気配りが足りないように思った。
- 時々マイクを使って大きな声を出すのをやめて欲しい。
- 授業自体は良いと思うが、嫌味を含んだ話が多くて嫌な気分になることがあった。
- 学年がうるさいからといって真面目な子達にも影響を及ぼす授業を展開するのはどうかと思う。
- 私たちの意見、考えていることを全否定されている気がした。
- しっかりやってきた学生を注意し、やっていない学生には注意をしなかったことはとても矛盾している。できていないなりの措置を取ってもらいたかった。
- 早口で聞きとれない。
- 時間通りに授業を始めてほしい。
- 「これでわからないわけがない」みたいな言い方をされるのが好きではない。

【成績評価】

- 2年と1年でグループワークを行うと、2年の方の負担が圧倒的に大きかった。強制されているわけではないが、その分も成績評価に加味してほしい。
- 教員がつきっきりで指導していた学生がいた。一生懸命学習に取り組んでいる学生が同じ評価を受けるのは非常に不平等であり実習に臨むモチベーションが低下した。
- 実験の班によって、筆記試験の勉強時間に差があるため公平ではない気がした。
- 事前学習をやるならせめて評価に入れてほしい。
- 中間試験とかがあると嬉しかった
- テストの回答基準がはっきりされていないものがあり不満。
- 出席も評価に入れて欲しかった。
- テスト範囲をもう少し詳しく知りたかった。
- 実技テストで先生によって評価の基準が違うような気がした。
- レポートで不正行為をした人がいるのにそれを見逃した理由を知りたい。
- グループで話し合った内容をそのまま個人の看護過程に記録し、提出していた人がいたので、しっかりとひとりひとりの提出物を確認して、評価してほしい。
- 講師の都合で他の授業がない日に補講を行われても出席できない。これが成績評価に入るのであれば本当におかしいと思う。

(4) その他

【授業環境・要望】

- 看護過程では、やる人とやらない人がいて負担に偏りがある。
- グループワークは積極的に取り組む人とそうでない人がいて、頑張っている人が負担を感じるので配慮してほしい。
- スマホでのメモや調べる行為を許可してほしい。
- 計算問題や練習問題の回答を配布してほしい。
- 21 講義室は看護と放射の学生が1つの机に2人ずつとかで座ると席がなくなり、座る場所がなくなるため、授業を受けられなくなるのが改善してほしい。

3. 1 教員による授業評価報告書の提出科目数

教員による授業評価の対象となった科目数と評価報告書提出科目数を表5に示した。教員による授業評価報告書の回答率は92.2%（平成30年度は93.6%）で1.4%低下した。科目区分別でみると看護学部の専門基礎科目・専門科目の回答率が最も高かった。

表5 令和元年度 教員による授業評価報告書の提出状況

科目区分	教養教育科目		看護学部 専門科目		診療放射線学部 専門科目		合計	
	実施	対象	実施	対象	実施	対象	実施	対象
講義	19	21	28	29	36	40	83	90
演習	20	21	21	23	15	16	56	60
実習	0	0	12	13	15	17	27	30
合計	39	42	61	65	66	73	166	180
回答率	92.9%		93.8%		90.4%		92.2%	

3. 2 学生の授業評価に対する担当教員による授業評価報告書の記述内容

報告書の内容は、「学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想」、「実施した授業方法・工夫に対する評価」、「授業に対する総合的評価と改善点」の3つの視点からの記述が求められている。主要な内容の一部を以下に示した。

(1) 学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想

- 授業評価は全体として期待通りであった。小テストとレポートの効果がでた。自己学修を促す工夫について「そう思う、強くそう思う」を合わせて92%であった。
- 授業の目標達成においては、4・5の評価が80%以上であった。概ね達成したという学生の理由は勉強不足であったが、全体的に積極的に授業に取り組んでいた。
- 出席率もよく、よく質問もし、意欲的に学ぼうとする姿勢がみられた。演習内容は出席カードに意見を沢山書いてくれたので理解度を確認できた。
- アンケートに答えた学生が昨年より増えたが、まだまだ少ないので学生に喚起していきたい。評価は例年とさほど変わっていない。

- 回答率が1割に満たないことから、全体の授業評価を反映するには限界がある。【演習内容の理解と目標達成】については、「十分達成」「高いレベルで達成」が60%であり、一方、「概ね達成した」と回答した学生からは学修不足が認められた。
- 最終回の授業の最後に5分程度時間をとり、manabaへの回答時間を設けたが回収率は少なかった。学生のレディネスでも十分理解でき、関心もてる内容の工夫やオムニバス教員を含め自己学修時間改善への工夫が今後の課題である。
- 今年度も小テストを頻繁に行ったが反感の意見はなく、逆に「小テストの実施が良かった」等の理解を深めるために好意的にとらえているようであった。
- ほとんどの学生が授業内容の理解を得られたようである。昨年よりは、全体的な理解度、満足度など向上している印象を受ける。自己学修時間が昨年より向上している点は、履修学生の特性にもよると考えられるが良かった点である。
- 【講義内容の理解と目標達成】【講義への満足度】の結果、学生が達成感や満足感を感じられるような授業展開が課題である。学生と各回の目標を共有し、その都度学生自身が目標達成度を把握できるような関わりが必要である。

(2) 実施した授業方法・工夫に対する評価

- 実習施設の関係で看護学部のみの実習班が生じた。従来の看護・放射の混成の班編成の方が高い実習効果を期待できると考えられるため、来年度からは以前の編成に戻す予定である。
- 実務に即した実習内容を技師と協同して教授し、臨床的な内容の理解を深めることができた。理解度は良い評価であり、実務の理解は十分にできたと考える。
- 毎回の授業で復習の時間配分を注意しシラバス通りに進めることができた。授業内の復習時間を減らしたが、毎回小テストを実施し理解を深められたようである。
- オムニバス形式である。主に教科書の内容の難易な部分に時間を割いて説明を行った。コンピューターの最新の分野も含むため、なるべく平易な説明を行った。評価項目全体では自己学修に関する項目以外の評価点は高めであった。
- 理解しやすいよう図表や絵・写真等を多く用いた。学生の理解状況と学修の準備状態を確認するため、リアクションペーパーによる診断的評価を行い、授業開始時にフィードバックしたことで、自己学修のモチベーションの機会となった可能性が高い。
- 各教員が自身の専門分野について、最新の知見や国家試験でも問われる知識を把握した上で講義を展開するなど、学生が興味や関心をもって学修できるよう授業内容等の工夫をすることができた。
- グループ演習は、学生が主体的に取り組み、発表からも良い学びができていたと思う。今後はモチベーションをあげられるよう工夫していきたい。
- 実際に行った活動に必要な知識や技術について具体的に学ぶことや、ビデオや写真等を用いて理解がしやすいように工夫した。参加型の講義を展開するために、グループ演習やディスカッションの時間を多く設定にした。グループ演習に対する学生の評価が良好であった。

- 理解とわかりやすさを念頭において講義を行った。また、前回の講義内容の復習として学生個々に質問する等し、学生の理解度を確認したことが評価につながった
- レポートの作成をスムーズに進められる工夫をした。自己学修時間も多くとることができ、授業以外の時間で学生らが積極的に学ぶことにつながられた。
- 段階的なオリエンテーションにより学生が滞りなく実習の準備をすることができた。記録物に対する指導の再検討や記録の意図の説明等の支援が必要である。
- 実習施設の指導者と密な連絡体制をとり、臨地では実習指導者が中心に指導を行えるよう体制を整える。

(3) 授業に対する総合的評価と改善点

- 復習を促すための課題や自己学修アップの方法等を模索する。出席カードに「映像など視覚で確認するとよく理解できる」と意見があった。引き続き取り入れたい。
- 今後は講義に臨む意欲を高めること、復習を宿題という形で考えたい。
- 学生の関心を引きそうな題材をサーチしていろいろな観点で討論できるようにしたい。授業内容を加味したレポートの書き方を教える授業も必要かもしれない。
- 授業の「目標達成度」と「満足度」は概ね良好であった。学生の学修習慣が身につくよう manaba と課題図書を用いた課題学修を継続する。
- 改善点として、学生が自発的に自己学修に取り組めるように、ガイダンスで自己学修の必要性を強調し説明する。自己学修できるよう教材（動画）を提供し、演習内容の学びを共有できるよう時間内にフィードバックする等工夫する。
- 今後も自己学修を促すような工夫・改善をしていきたい。学生の授業参加を促すため、リアクションカードをさらに活用していきたい。
- 概ね高評価を得られていると感じる一方で、授業内容が多すぎることに起因すると推測される不満が散見された。講義内容を一層厳選し必要十分な内容を目指す。
- 試験結果及び学生からの授業評価より授業の目標を達成できた。今後は学生の学修意欲を高め、実習における主体的学修につながるようルーブリックの活用方法や評価方法等について丁寧に説明し、授業を展開していく必要がある。
- 実習目標が未達成となる学生や心身面の問題を抱えながら実習に臨む学生がおり、担当教員が指導対応に追われる状況が散見された。次年度はさらに慎重な配慮をするとともに、他の学生の不利益とならないよう教員間で連携を深めていきたい。
- 総合評価へ例年とほぼ同様であった。授業評価をふまえ、より良い効果的な実習成果が得られるよう事前・事後学修の促進や中間・総合カンファレンスの運営等の改善をはかる必要がある。

4. 授業評価の分析

4. 1 学生による授業評価

4. 1. 1 授業評価の実施率と学生による回答率にみられる特徴

平成 29 年度より manaba を用いた授業評価調査が導入され、事務局で一括した公開設定により授業評価の実施率は本年度も 100%であった。しかし、回答率については、アンケート用紙の配布・回収方法を用いた調査（回答率 80%以上）と比べ、manaba での調査開始後、回答率は半分以下に低下した。回答率の低下は、回答方法の変更の影響よりも、学生の自主性に応じた回答に委ねられたことが回答率低下をもたらしたと推測された。そこで、教員への授業評価回答率の低下における周知とともに、可能な範囲で授業時間内の時間を活用し学生に回答を促す等、回答率向上を目的とした対策を強化した。その結果、回答率は平成 29 年度 36.1%、平成 30 年度 41.3%、令和 1 年度は 44.5%と昨年度から約 3%の上昇を認めた。manaba 調査開始後、回答率は上昇傾向にある。また、教員側も学生による授業評価の結果を真摯に受けとめ授業改善に向けた課題意識も強く、授業評価の回答率向上を目指す努力・工夫が継続されている。各科目の授業評価の信頼性を高めるためには、学生による授業評価の回答率向上に継続して取り組む努力が必要である。回答率を高めることで、目標達成度や満足度、自己学修や成績評価等の多様な観点から総合的に評価が可能となり、授業改善に向けた具体的課題を導くことにつながると考える。

4. 1. 2 アンケート内容の更新について

平成 30 年度よりアンケート内容が全面的に更新された。主な更新理由は、manaba の採用によるアンケート形式の自由度が増したことから、1)教員へのフィードバック内容の明確化、2)自由記述による多様な意見の収集、3)集計作業に関する時間の短縮化等であった。

1)については、項目数を 15 項目から 12 項目に絞り込み、典型的な回答例を選択肢に設定し自由記述欄で具体的理由を求めたことや、質問内容・順序の設定により、教員へのフィードバックと改善点を明確にすることが可能となった。

2)については、典型的な回答例以外の少数意見や学生の視点を通した具体的意見や感想を多角的に把握することが可能となり、具体的な授業改善や強化を含めた対応への示唆を得られるようになった。また、学生が客観的視点から授業を振り返る自由記述は、否定的な意見だけではなく、肯定的な意見も記載され教員の授業改善に向けた意欲の喚起にもつながると考える。

3)については、ICT 活用による利便性を考慮し、事務局の集計作業時間の短縮化や負担軽減を図ることが期待される。また、プログラムの自動化や更新等、さらなる迅速化につなげるために予算の獲得を含め継続した整備が必要である。

4. 1. 3 授業評価の得点について

授業評価の平均得点値は、評価項目⑧の週平均の自己学修時間を除いて、ほとんどの科目区分や授業形態において 4 点前後を示した。このことから、多くの授業は学生のニーズ・満足度を満たすレベルであったと評価できる。講義科目全体における各項目別で見ると「①講義の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか。」「⑥シラバスを参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で講義を受けましたか」の平均得点が 3.78 と低く、一方、演習

の「⑦わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか。」(3.98)と「⑩総合的にみて、この講義に満足できましたか。」(4.10)がやや高値を示した。この傾向から推測すると、授業全体には満足をしているものの、講義内容の理解や目標達成に向けて、シラバスを参考にするなど、学生自らの主体的な講義への参加度は十分でなかったと自己評価しているものと考えられる。

各項目を科目区分別に見た場合、項目⑩の授業に対する満足度は、診療放射線学部の専門基礎科目・専門科目で(4.24)、看護学部の専門基礎・専門科目(4.13)、教養教育科目(4.16)であった。また、項目⑦のわからない点に対する問題解決に向けた姿勢は、診療放射線学部(4.25)、看護学部(4.16)、教養教育科目(4.03)でほとんど変わらなかった。この傾向は、教養科目から専門基礎・専門科目へと年次進行に伴い、演習や実習といった目標達成に向けて主体的な学修活動が求められ、授業への取り組み姿勢が反映されたものと推察される。

目標達成に向けた主体的な学修活動に視点をあてると、全体傾向として評価項目⑧の自己学修時間が少ないことに注視する必要がある。科目区分別にみると、診療放射線学部の専門基礎科目・専門科目が2.7、看護学部の専門基礎科目・専門科目が2.7、教養教育科目2.2であった。この結果から学生は、各授業に対し週平均で30分～1時間程度の自己学修時間しか確保していない状況を示し、学修時間の不足は否めない。単位修得に向けた自己学修時間の確保の必要性を学生自身が認識し、主体的に学修活動に取り組むことができるよう低学年から積極的な自己学修への働きかけが必要である。

自己学修については、各科目のシラバスにも単位修得に向けた自己学修時間の記載や、事前・事後学修課題を明記する等の取り組みを行っているが、さらに学生の認識や意識促進に向けた工夫が必要と考える。manabaの導入によりコンテンツを利用した動画や小テスト・アンケートなど事前・事後学修に活用可能な効果的手段が準備されている。manaba活用の知識や活用テクニックについて、教員側の準備状況に格差もあり活用方法は一律統一したレベルには至っていないが、学内研修会にて基本的知識の理解を得て、manabaの活用・工夫を取り入れる科目も多くなってきた。さらに、学生の興味・関心を喚起し、主体的な学修活動への取り組みを促す授業改善が求められる。

4. 1. 4 学生の自由記述について

項目⑫の自由記述については、「この講義(演習 or 実習)の良かった点、改善点について、具体的に記入してください。」と質問内容を限定し、学生の視点による具体的な意見・感想を求めた。具体的な記述内容は「看護学部と合同で演習をすることで、他職種の考えを知ることが出来た」「就職後も研究は常に関わってくると思うので、学びをいかしていきたい」「診療放射線技師になる上で重要な法律について学ぶことができた」等、授業展開を通して保健医療専門職を目指す学生として学び得た知識を深め、さらに視野を広げ今後活用しようとする姿勢につなげることができたと評価できる。また、「事例やDVDなどの教材を沢山使った授業だったので、よりわかりやすく学ぶことができた」「質問形式の授業だったので理解が深まっ

た」等、学生は授業内容の理解につながる質問形式の参加型の授業や、わかりやすい教材の工夫等に高評価であった。さらに、「manaba を使って資料をたくさん配布されていたので学習がしやすかった」「小テストで復習ができて良かった」等、manaba を活用した教材を通し、事前・事後学修に取り組むことで学修内容の理解が深まる実感を得ている可能性が示唆された。一方、「教員により説明内容が異なる」「資料がわかりにくい」等の意見もあった。学生の主体的かつ意欲的な学修活動につなげることができるよう、これらの多様な意見や要望を真摯に受け止め、授業改善に向けた継続的な検討が必要である。

4. 2 教員による授業評価報告書について

学生による授業評価は、教員の授業展開・方法を客観的に振り返る機会となり、教授活動をさらに発展・強化するための貴重な資料である。教員による授業評価報告書は、学生の授業評価の結果をふまえ、授業内容の理解度と目標達成状況や、授業に対する取り組み状況、自己学修の促進への工夫、授業に対する満足度等の観点を学生の視点から捉え、授業方法や工夫した点が学生の理解度や目標達成状況に効果的であったのか等、客観的に自己評価が可能となる。授業評価報告書の内容には、授業評価の整合性の観点から回答率の向上の必要性、学生のニーズに応じた講義内容や授業展開方法の工夫・改善の必要性、学生が主体的に学修活動に取り組むための動機づけや教材の工夫、目標達成に向けた教員間の連携や指導体制の整備等、授業改善・問題解決に向けた対応策や新たな課題といった多様な記述内容が認められた。

また、manaba を活用した授業展開に対する評価を得て継続した活用への示唆が散見された。

5. 令和元年度におけるFD部会・委員会の活動について

FD関連の組織は、学部では教務学生委員会の下部組織としてFD部会が設置されている。また大学院では、研究科専門委員会の一つとして研究科FD委員会が位置づけられている。

授業評価は、授業科目ごとに実施され、FD部会長がとりまとめ役を担い、評価の実施と教員による授業評価報告書の作成依頼、FD教員研修会の企画・実施を行っている。また、学生による授業評価及び教員による授業評価報告書の依頼は、本学の「群馬県立県民健康科学大学における授業評価実施要領」に基づいて実施し、部会では、この要領に基づいて実施と集計・分析・報告書の作成を担当している。

本年度は授業評価調査を開始後10年目となる。平成29年度よりmanabaを用いた調査が導入され、昨年度にはアンケート内容を一新した。学生による授業の改善点を自由記載により回答を求めることで、教員が授業の改善点を明確化し実効性のある授業改善・向上を図ることを目指したものである。アンケート内容の変更が授業改善に反映される効果をもたらすかどうかは、継続的にデータを蓄積し評価得点の推移を追跡し評価することが必要である。また、授業改善の実効性を上げるためには、評価結果の整合性の観点から各科目の回答率を高める努力も並行して行っていくことが必要である。

学生による授業評価と教員の授業評価報告書双方において、manaba を活用した教材が事前・事後学修の取り組みへの意欲を喚起し、授業内容の理解促進に効果的であることが示唆された。今後も引き続き manaba の活用の推進を図ることが必要である。

大学教育の目的は、教育・研究を通してディプロマ・ポリシーを満たす学生を育成することである。組織的な教学マネジメントの実践においては、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを基盤とした学修目標の具体化や、学修成果・教育成果の把握・可視化、FD 研修会の実施等により教育課程の質保証を行っている。各科目の成績評価は平成 30 年度から成績評価ガイドラインが施行され、本年度より正式に運用が開始された。GPA で数値化された成績評価結果は学生のみならず、教員も分析対象とし年度毎の成績評価分布を教員にフィードバックし、成績評価の信頼性と学修成果把握の客観性の向上に活用している。

以上のように、授業評価結果に基づく授業改善・向上のみならず、学修成果の把握・可視化、適正な成績評価等を含め検討・改善に取り組んでいる。教育の質保証において、多様な取り組みを組み合わせ本学の教育・研究の質向上に向けて今後一層の発展が必要である。

6. まとめ

平成 29 年度より manaba を用いた学生による授業評価調査を開始し、昨年度アンケート内容を一新し、2 年めである。Web 調査に切り替えたことで、紙面調査時期と比較し回答率は低い。引き続き回答率を高め、整合性のあるデータを確保するとともに、数年間のデータの蓄積と得点の推移を追跡し評価する必要がある。一方、学生による授業の改善点を自由記載により問うことで、教員へのフィードバックが具体化され、授業内容や方法等の改善策を明確化し、教育の質保証の一助となることを期待したい。

学生による評価得点は、全体的に「自己学修時間」を除き、ほぼ 4 点前後であった。一方、「自己学修時間」は 2.5 と低く、週平均 30 分～1 時間程度の自己学修時間であり学修不足は認めない現状であり、継続課題である。保健医療専門職を目指す学生としての自覚を促し、自己学修時間の確保に対する対策が必要である。

学生への自己学修時間の増加を目的とする取り組みとしては、1) 各科目のシラバスに自己学修時間の明記と必要性の説明、2) 成績評価は授業目標の達成度によること等の周知を図った。さらに、平成 30 年度からは授業評価の項目に教員からの自己学修に対する働きかけの程度を学生の視点を通して評価する項目を加えた。教員による授業評価報告書からも、自己学修を促す工夫や対応への意欲・姿勢とともに、manaba の活用・推進の傾向が認められた。授業科目の多くはオムニバスで複数の教員が授業を担当しているが、授業評価報告書の共有により自己学修に対する各教員の意識や取り組みも高まっていると推察される。

内部質保証の観点からも、教学マネジメントを基盤にディプロマ・ポリシーの達成度を重視し、科目レベル・プログラムレベルで改善点を明確化したうえで、組織的に継続的かつ具体化した取り組みが必要である。